

JVC KENWOOD

creates excitement & peace of mind

株主のみなさまへ

第5期中間期(第2四半期)のご報告

(2012.4.1-2012.9.30)

株式会社 JVCケンウッド



平素は格別のご高配を賜りありがたく厚く御礼申し上げます。

当社は、9月30日をもって第5期中間期(第2四半期)を終了いたしましたので、ここにご報告を申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、欧州を中心とする金融不安の拡大や、中国をはじめとするアジア経済の減速など、先行き不透明な状況で推移しました。日本経済は、東日本大震災からの復興需要を背景に緩やかな回復傾向が見られましたが、歴史的な円高や欧州経済の低迷、アジア経済の減速に加え、中国や韓国での反日気運の高まりによる影響を受け、先行き不透明な状

況となりました。

こうした状況の下、当社グループにおける当第2四半期連結累計期間は、成長戦略を推進しているカーエレクトロニクス事業と無線機器事業を中心に国内、北米、アジアでの販売が堅調に推移しましたが、円高や欧州経済の悪化などの影響を受けて、売上高は前年同期比で減収となりました。損益については、対ユーロでの円高やタイ洪水の影響による一時的なコスト増加などにより、前年同期比では減益となりました。中国や韓国での反日気運の高まりによる当社業績への影響は軽微でした。

財務面では、前連結会計年度末比で有利子負債が減少し、自己資本比率が改善しました。

売上高

1,492億66百万円

当第2四半期連結累計期間における売上高は、カーエレクトロニクス事業と無線機器事業を中心に国内、北米、アジアでの販売が堅調に推移し、エンタテインメント事業がヒット作品を多数輩出しましたが、全社の売上高は、円高にともなう円換算額の減少や欧州経済の悪化、ホーム&モバイルエレクトロニクス事業における一部機種絞り込みの影響などにより、前年同期比で約86億円減(5.4%減収)の1,492億66百万円となりました。

営業利益

43億66百万円

当第2四半期連結累計期間における営業利益は、対ユーロを中心とした円高の影響(△約19億円)やタイ洪水対策にともなう一時的なコスト増加(△約8億円)などにより、前年同期比で約26億円減(37.0%減益)の43億66百万円となりました。

一方、中期経営計画に沿った取り組みにより各事業の収益力を高めた結果、欧州経済の悪化による販売の減少や特許料収入の減少、人件費抑制策の終了にともなうコスト増加などの減益要因は相殺することができました。

経常利益

29億66百万円

当第2四半期連結累計期間における経常利益は、営業利益の減少と為替差益の減少などにより、前年同期比で約34億円減(53.6%減益)の29億66百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間は、平成24年4月20日付で香港の車載機器事業会社Shinwa International Holdings Limited(以下「シンワ」といいます。)の発行済株式の45%を取得し、持分法による投資利益を計上しましたが、前年同期に比べて為替差益が減少したことなどにより、営業外収支は前年同期比で約9億円悪化しました。

四半期純利益

12億37百万円

当第2四半期連結累計期間における四半期純利益は、経常利益の減少などにより、前年同期比で約36億円減(74.6%減益)の12億37百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間は、固定資産売却益やタイ洪水関連の受取保険金の一部ありましたが、海外関係会社における雇用構造改革費用や投資有価証券評価損を計上したことなどにより、特別損益は前年同期比で約4億円悪化しました。

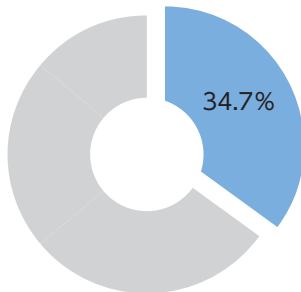
一方、当第2四半期連結累計期間の法人税等は前年同期比で約3億円減少しました。

セグメント別状況 | Segment Review

セグメント別の売上高および営業利益は次のとおりです。

■カーエレクトロニクス事業

売上高構成比
(第2四半期累計)



当第2四半期連結累計期間におけるカーエレクトロニクス事業は、円高や欧州販売の減少の影響などにより、売上高は前年同期比で約24億円減(4.4%減収)の518億3百万円、営業利益は同約17億円減(45.1%減益)の21億19百万円となりました。

市販分野は、カーナビゲーションシステムやカーオーディオの販売が国内、アジアを中心に堅調を持続しました。欧米では高いマーケットシェアを持続しましたが、欧州で対ユーロでの円高や市場低迷の影響を受けました。また、国内ではAV一体型カーナビゲーションシステム「彩速ナビ」のヒットにより、マーケットシェアを伸ばしましたが、当第2四半期連結会計期間に入って市場停滞の影響により販売が減速しました。

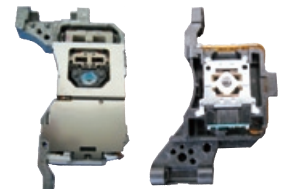
OEM分野は、自動車メーカー向けAV一体型カーナビゲーションシステム(ディーラーオプション商品)の出荷が当第2四半期連結会計期間に入って減速しましたが、引き続き安定した収益を計上しました。車載機器用CD/DVDドライブメカニズムの出荷は欧州向けが伸び悩みましたが、車載機器用光ピックアップの出荷は引き続き堅調に推移しました。



AVナビゲーションシステム「彩速ナビ」



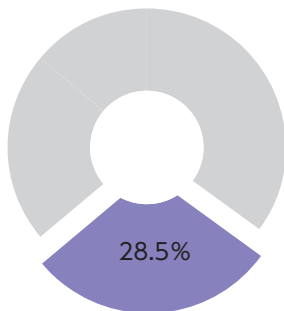
車載用CD/DVDメカニズム



光ピックアップ

■業務用システム事業

売上高構成比
(第2四半期累計)



当第2四半期連結累計期間における業務用システム事業は、円高の影響に加え、ビジネスソリューション事業におけるタイ洪水の影響や一部商品の出荷遅れの影響により、売上高は前年同期比で約25億円減(5.5%減収)の425億59百万円、営業利益は同約11億円減(61.8%減益)となる6億86百万円となりました。

無線機器事業は、公共安全向けデジタル業務用無線機や独自開発のデジタル業務用無線機「NEXEDGE」の販売が北米を中心に好調を維持し、円高の影響やコスト増加要因を吸収して前年同期並みの売上高、営業利益を計上しました。

ビジネスソリューション事業は、円高や欧州経済の悪化の影響に加え、タイ洪水対策として実施した横須賀事業所での代替生産にともない、第1四半期連結会計期間に一時的なコスト増加(△約8億円)が生じたことや、当第2四半期連結会計期間に入って外部生産委託していた一部の商品に出荷遅れが生じたことから、売上高、営業利益が前年同期を下回りました。しかしながら、タイ工場での生産の平常化によって平成24年6月以降はタイ洪水の影響がほぼなくなり、当第2四半期連結会計期間の損益は第1四半期連結会計期間に比べて大幅に改善しました。



デジタル業務用無線機

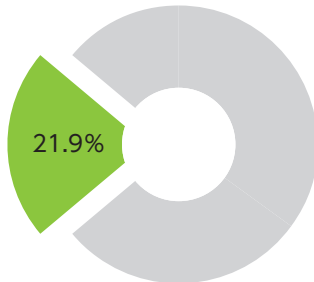


業務用ビデオカメラレコーダー

セグメント別状況 | Segment Review

■ホーム&モバイルエレクトロニクス事業

売上高構成比
(第2四半期累計)



当第2四半期連結累計期間におけるホーム&モバイルエレクトロニクス事業は、円高の影響に加え、欧州販売の減少や高付加価値戦略にともなう一部機種の絞り込みの影響により、売上高は前年同期比で約54億円減(14.1%減収)の326億33百万円、営業利益は同約2億円減(38.8%減益)となりましたが、収益力の強化によって3億66百万円の黒字を持続しました。

音響事業では、ヘッドホンやイヤホンの販売が好調に推移し、AVアクセサリ分野が高い収益性を持続しました。また、ホームオーディオ分野は、市場縮小の影響を受けましたが、イオナイザー搭載オーディオやファニチャーオーディオを提案型商品として導入し、商品構成の改善が進みました。

映像事業では、プロジェクター分野が苦戦しましたが、Wi-Fi機能搭載カムコーダーに続く提案型商品として国内・海外市場にスポーツカムを導入した効果などにより、カムコーダー分野が営業黒字に転換しました。



イオナイザー搭載コンパクトコンポーネントシステム

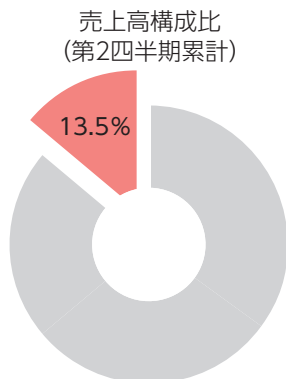


Wi-Fi内蔵ハイビジョンメモリームービー



スポーツカム“ADIXXION”

■エンタテインメント事業



当第2四半期連結累計期間におけるエンタテインメント事業は、ソフトビジネスの好調と受託ビジネスのコスト削減効果により、売上高は前年同期比で約21億円増(11.7%増収)の201億3百万円、営業利益は同約7億円増(106.6%増益)の13億10百万円となりました。

ソフトビジネスは、テレビ番組主題歌などのヒット作品を多数輩出したことに加え、音楽アルバムのヒット作品を複数輩出しました。さらに、アニメ関連が好調を持続したことや音楽関連の権利収入などが順調だったことから、収益が拡大しました。

受託ビジネスは、ヒット作品の輩出により光ディスク生産が堅調だったことに加え、コスト削減効果が現れ、損益が改善しました。

なお、当第2四半期連結会計期間における主なヒット作品は、以下のとおりです。

【ビクターエンタテインメントの主なヒット作品】

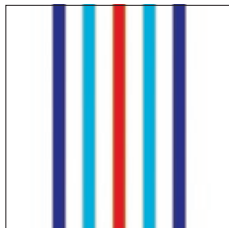
- 桑田佳祐 ベストアルバム「I LOVE YOU -now & forever-」
- SMAP アルバム「GIFT of SMAP」、シングル「Moment」(TBSロンドンオリンピック2012テーマソング)
- 家入レオ シングル「Bless You」

【ティチクエンタテインメントの主なヒット作品】

- 関ジャニ∞ 8周年プロジェクト第2弾シングル「ER」(公開映画「エイトレンジャー」主題歌。エイトレンジャー名義でのリリース)、第3弾シングル「あおっぱな」(テレビ朝日系ドラマ「ボーイズ・オン・ザ・ラン」主題歌)



桑田佳祐 「I LOVE YOU
-now & forever-」



SMAP 「GIFT of SMAP」



家入レオ 「Bless You」



関ジャニ∞ 「あおっぱな」

バランスシート / キャッシュ・フロー | Balance Sheet / Cash Flow

バランスシート / キャッシュ・フローについて

(資産、負債、純資産等の状況に関する分析)

*資産

総資産は、季節要因や円高の影響による受取手形及び売掛金の減少に加え、社債の償還や借入金の返済などにより現金及び預金が増加したことから、前連結会計年度末比で約183億円減の2,234億47百万円となりました。

*負債

負債は、季節要因による支払手形及び買掛金の減少や未払費用の減少に加え、社債や借入金の圧縮などにより、前連結会計年度末比で約147億円減の1,700億21百万円となりました。

有利子負債(借入金と社債の合計)は、同約76億円減の847億59百万円となりました。ネットデット(有利子負債から現金及び預金を控除した額)は、現金及び預金の減少により同約22億円増の290億31百万円となりました。

*純資産

平成24年6月に平成24年3月期の期末配当を実施したものの、四半期純利益を計上したことなどから、利益剰余金は前連結会計年度末比で約6億円増の247億77百万円となり、株主資本合計は同約6億円増の801億17百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末に対して米ドル・ユーロなどの主要通貨で円高が進行し、海外関係会社への出資などに係る為替換算調整勘定が約△274億円から約△312億円になったことなどにより、同約36億円減の534億25百万円となりました。一方、自己資本比率は、総資産の圧縮により前連結会計年度末比で0.3%上昇し、23.2%となりました。

(キャッシュ・フローの状況に関する分析)

*営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において営業活動により増加した資金は84億5百万円となり、前年同期比で約66億円収入が増加しました。主な要因は、前連結会計年度の雇用構造改革にともなう費用の支出が大きく減少したことや、売上債権が減少したことによるものです。

*投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において投資活動により減少した資金は79億65百万円となり、前年同期比で約46億円支出が増加しました。主な要因は、シンワ株式を取得したことによるものです。

*財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において財務活動により減少した資金は86億81百万円となり、前年同期比で約121億円支出が増加しました。主な要因は、社債の償還や借入金の返済、配当金の支払いによるものです。

なお、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前年同期末比で約85億円減少し、555億14百万円となりました。

中間配当について | Interim Dividend

中間配当について

当社では、安定的に利益還元を行うことが経営上の最重要課題の一つと考え、収益力および財務状況を総合的に考慮して剰余金の配当およびその他処分などを決定することとしています。

この方針に基づき、第5期の中間配当につきましては、第1四半期連結会計期間にタイ洪水の影響による一時的なコスト増加が発生したことなどにより、誠に遺憾ながら見送らせていただきました。

今後も株主のみなさまのご支援とご期待にお応えできるよう、全社一丸となって邁進いたしますので、株主のみなさまにおかれましては、今後とも、より一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

連結財務諸表 | Consolidated Financial Statements

■ 四半期連結貸借対照表 当第2四半期連結会計期間（平成24年9月30日）

（単位：百万円）

科 目	金 額
(資 産 の 部)	
流 動 資 産	145,177
現 金 及 び 預 金	55,728
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	42,077
商 品 及 び 製 品	27,037
仕 掛 品	2,806
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	6,763
そ の 他	12,123
貸 倒 引 当 金	△ 1,359
固 定 資 産	78,033
有 形 固 定 資 産	48,633
建 物 及 び 構 築 物 (純額)	12,700
機 械 装 置 及 び 運 搬 具 (純額)	3,274
工 具、器 具 及 び 備 品 (純額)	3,783
土 地	28,126
建 設 仮 勘 定	749
無 形 固 定 資 産	14,207
の れ ん	4,574
ソ フ ト ウ エ ア	6,752
そ の 他	2,881
投 資 そ の 他 の 資 産	15,192
投 資 有 価 証 券	6,973
前 払 年 金 費 用	3,333
そ の 他	5,994
貸 倒 引 当 金	△ 1,108
繰 延 資 産	236
資 産 合 計	223,447

科 目	金 額
(負 債 の 部)	
流 動 負 債	140,434
支 払 手 形 及 び 買 掛 金	27,109
短 期 借 入 金	18,485
1年内返済予定の長期借入金	47,735
1 年 内 償 還 予 定 の 社 債	5,879
未 払 金	10,084
未 払 法 人 税 等	19,701
未 払 法 人 税 等	1,388
製 品 保 証 引 当 金	2,107
返 品 調 整 引 当 金	1,501
そ の 他	6,442
固 定 負 債	29,587
社 債	5,610
長 期 借 入 金	7,050
退 職 給 付 引 当 金	7,895
そ の 他	9,031
負 債 合 計	170,021
(純 資 産 の 部)	
株 主 資 本	80,117
資 本 金	10,000
資 本 剰 余 金	45,875
利 益 剰 余 金	24,777
自 己 株 式	△ 535
その他の包括利益累計額	△ 28,290
その他有価証券評価差額金	△ 211
土 地 再 評 価 差 額 金	3,209
為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 31,288
新 株 予 約 権	806
少 数 株 主 持 分	792
純 資 産 合 計	53,425
負 債 純 資 産 合 計	223,447

連結財務諸表 | Consolidated Financial Statements

■ 四半期連結損益計算書(要旨) 当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで） (単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	149,266
売上原価	104,628
売上総利益	44,637
販売費及び一般管理費	40,271
営業利益	4,366
営業外収益	1,010
営業外費用	2,410
経常利益	2,966
特別利益	385
特別損失	1,090
税金等調整前四半期純利益	2,262
法人税、住民税及び事業税	1,068
法人税等調整額	△ 77
法人税等合計	991
少数株主損益調整前四半期純利益	1,270
少数株主利益	33
四半期純利益	1,237

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) 当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで） (単位：百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,405
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,965
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,681
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,722
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 9,964
現金及び現金同等物の期首残高	65,478
現金及び現金同等物の四半期末残高	55,514

会社情報 | Corporate Profile

■ 商号	株式会社JVCケンウッド (英文名: JVCKENWOOD Corporation)
■ 事業内容	カーエレクトロニクス事業、業務用システム事業、ホーム&モバイルエレクトロニクス事業、エンタテインメント事業等を営むこと、ならびにこれに相当する事業を営む会社の株式または持分を保有することによる当該会社の事業活動の管理
■ 設立	平成20年10月1日
■ 本店所在地	横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地

取締役



代表取締役
河原 春郎



代表取締役社長
江口 祥一郎



取締役
相神 一裕



取締役
藤田 聡



取締役
栗原 直一



取締役
松沢 俊明



取締役(社外取締役)
瀬尾 信雄



取締役(社外取締役)
柏谷 光司



取締役(社外取締役)
正田 純一

監査役



常勤監査役
坂本 隆義



監査役(社外監査役)
鷲田 彰彦



監査役(社外監査役)
浅井 彰二郎

執行役員

※ (兼)は取締役との兼務

(兼)執行役員 最高経営責任者(CEO)兼 最高リスク責任者(CRO)
(兼)執行役員 専務 新興地域戦略本部長、
業務用システム事業グループ 最高業務執行責任者(COO)
(兼)執行役員 最高財務責任者(CFO)
(兼)執行役員 常務 CRO補佐、
カーエレクトロニクス事業グループ 最高業務執行責任者(COO)
(兼)執行役員 常務 CRO補佐、
ホーム&モバイル事業グループ 最高業務執行責任者(COO)

江口 祥一郎
相神 一裕
藤田 聡
松沢 俊明
栗原 直一

執行役員 常務 CRO補佐、
ソフトエンタテインメント事業グループ 最高業務執行責任者(COO)
執行役員 最高技術責任者(CTO)
執行役員 常務 経営戦略部長
執行役員 常務 人事労務部長
執行役員 常務 生産・調達戦略部長

斉藤 正明
河井 研介
今井 正樹
小宮山 正前
落合 信夫

株主メモ | Shareholder Information

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 上記基準日の他、基準日を定めて剰余金の配当をすることができます。
公告の方法	電子公告により行います。(http://www.jvckenwood.co.jp) 当会社の公告は、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第一部
証券コード	6632
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-176-417 〈※平成25年1月より郵便物送付先・電話照会先が変更となります。〉 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-782-031
(インターネットホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html/
【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】 証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。 証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。	
【特別口座について】 株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。	
お問い合わせ先 株式会社JVCケンウッド 経営戦略部 戦略企画統括部 広報・IR担当 住所：〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地 電話：(045)444-5232(直通) Eメール：prir@jvckenwood.com URL：http://www.jvckenwood.co.jp	